

生産現場のお悩み解決します！
腕利きエンジニアが見た・聞いた

華南ITトラブル 奮闘記



text by 日立情報システム(上海)有限公司広州分公司

中島稔充

EPRシステムの開発を経て、製造業に8年。華南3年目、勝手の違う中国工場に悪戦苦闘する日々。ITを通じた理想的な製造現場作りに燃えている。

案件1 明確な業務フローのほずなのに……

中国工場に向向し、前任者からの引き継ぎが終わった途端、思いもよらぬトラブルが発生。その原因とは――

連載開始のごあいさつ

「打ち込め魂、仕事の上に」
セピア色を感じさせるフレイズですが、日本にある弊社の某事務所では今でも掲げている所があります。さすがに初めて見た時には、バブル崩壊後に入社した自分にとってちょっとした衝撃でした。
フレイズは違えど、DNAレベルで日本人に埋め込まれた魂をどうやって工場の作業員に伝えようか、日々お悩みの方も多いと思います。良い製品を作るために、契約で縛ればよいのか、個人を教育するべきなのか。この国ではどうすればよいのか……。

これから、半年6回にわたって、弊社深圳分公司の丹羽誠一と交代で、華南地区の日系企業の方々からお聞きした、地域固有の問題から、社内で抱えている課題まで、ご紹介をさせていただきます。まずは恥をしのいで、私自身の体験を交えてお話ししましょう。

赴任初日…頭の中が真っ白に

中国工場への出社初日、前任者と共に車に乗り込み、過ぎ行く景色や道筋を覚えるかのように、前方をキヨロリ、左右をキヨロリ、傍らの前任者は、景色を見るでも

なく、今日からの引継ぎ事項を優先順位に沿って一つひとつ確認するかのように思いを巡らしている。車は町並みはずれ、目に入る景色にもちよつと飽きてきたころ、これから長期間、生活の大半を過ごすことになる職場へとたどり着いた。

前任者から勧められて座席に着き、椅子の感触を確かめるように浅く腰掛け、日本の職場を思い出しながら、雑誌の間違い探しをするかのように、何気なく、職場の中を見渡してみた。

周りは定時に近づくにつれ、聴き慣れない言葉が飛び交うようになり、ここが日本ではないことを再認識すると共に、赴任挨拶が日本語でも大丈夫かという心配も膨らんできた。そして、終業のチャイムと共に前任者から声がかかり、促されるように全員の前立たされた。

進行役から全体への連絡事項が伝えられ、そのなかで、新任者紹介が告げられた。その時点で、頭の中は機内で考えていた原稿を思い出そうとしていたが、中文だけが思い出せない。練習したはずの文章が出てこない。頭の中は真っ白である。

職場の静けさを前にゼンマイを巻かれたロボットのように「大家好」と一言発した後は、日本語で話すほかなかつた……。

赴任1週目…増していく不安

前任者より、仕掛作業と定型的な作業の引き継ぎが始まった。非定型的な作業については、主な注視点のみ説明を受け、それ以外は引き継ぎ期間中に都度説明を受けることとなった。

仕掛作業については、実行段階のものとの計画段階のものがあり、前者は作業者もいることからあまり心配はないが、後者はそもそも目的、関係者、支援者などの把握が難しくそうな状況であった。定型的な作業については、業務フローが明確になっているものから、明確になっていないもの、明確になつているが関係者が多岐にわたるものなどさまざま。

短い引き継ぎ期間のなかで、どのように優先順位をつけて整理し、理解するのか、不安が増すばかりであった。

赴任1か月目…トラブル発生！

前任者が帰任の途に付いた初日、さつそく問題が発生した。定型的な作業で業務フローも明確になっていたはずの作業が、進められない。関係者に確認したところ、以前業務フローを変更した際、資料の変更までは手が回っていないかつたことが判明。数時間で解決したものの、この先が思いやられるばかりである――。

製造業よろず相談室

処方箋“ITソリューション”作ります

○生産管理ソリューション

生産管理「WEBSKY」、現場支援「軽舟仕佳POP」

○セキュリティ管理ソリューション

診断サービス、統合システム運用管理「JP1」

日立情報システム(上海)有限公司 広州分公司 深圳分公司

広州: ☎138-2619-5271

中島 ✉tnakashima@hiss.cn

深圳: ☎150-1386-9523

丹羽 ✉niwa@hiss.cn

HITACHI
Inspire the Next

日立

www.hiss.cn